

## 研究のねらい

近年、有色米への関心が高まるとともに、各地で在来種、改良品種が栽培されている。東北地域では、既に紫黒米品種や赤米粳品種「紅衣」が育成されているが、地域に適した赤米糯品種はまだない。そこで、要望の強い赤米糯品種を育成し、有色米を活用した地域の活性化を促進する。

## 成果の内容

- ①「夕やけもち」(水稻農林糯417号)は、2006年に東北農業研究センターで育成した、“早生の晩”に属する赤米糯品種である。
- ②短強稈で倒伏に強く脱粒しにくいいため、一般品種と同様に機械化体系での栽培が可能である。ふ先(籾先)色は紫で、出穂後であれば一般品種との識別が容易である。
- ③玄米重は「たつこもち」と同程度で、収量性は一般糯品種並である。
- ④「たつこもち」の玄米と比較して、食物繊維、ナトリウム、ナイアシン、アントシアニン、タンニン、カテキンの含量が高い。



図1 圃場での草姿  
(ラベルより左:紅衣、右:夕やけもち)



図2 籾及び玄米  
(左:夕やけもち、右:紅衣)



図3 「夕やけもち」の加工品(試作品)  
(左から、切り餅、醸造酒、そば)

## 成果の利活用

- ①赤飯、赤粥、雑穀飯等の着色米飯、赤餅、赤米醸造酒等、加工用への利用が期待される。
- ②一般品種への混入を防ぐため、播種、移植時に種子や苗が混入しないように注意するとともに、収穫時、脱穀調製時にも専用機械を用いる等の対策が必要である。また、出穂期に近い一般品種の周辺では、自然交雑の可能性があるので注意が必要である。
- ③栽培適地は、東北地域及びそれ以南の早生品種栽培地帯である。いもち耐病性が弱いため、適正施肥、適期防除に努める。